

ようこそ わがまちへ



西村紀朗さん（陣構、66歳）
大山和牛部部会長（JA）であり、全国和牛能力共進会大山町実施本部の委員をされています。



自宅から10mほど離れた牧場で、のんびり草を食べる和牛。新鮮な牧草を食べることで、ビタミンが補給され、適度に運動することで、健康な子牛が産まれます

大阪府出身で6年前に大山町に移り住み、自宅近くの牧場で和牛を放牧し、育てている西村紀朗さんにお話を聞きました。

Q・大山町に住むようになったきっかけは何ですか？

西村 職場の先輩に、神田展望台のすぐ下の土地を紹介してもらったのがきっかけです。学生時代から牛を飼うことが夢でしたが、経済的に難しく、定年退職後にやっと実現しました。大阪で生まれ育ち、獣医科大学を卒業して獣医師の免許を取り、明治乳業に就職しました。新任地は大山口駅近くにあった工場で、半年ほど旧大山町に住んだ

ことも。研修後、鳥取県東部、中部に10年半勤務し、その後、静岡、関西、九州、東京などで勤務しました。

神戸に家族、親戚がいることから、日帰りでき、海と山が近くにあるところを探し、こちらに住むことに。牛の運動場を兼ねた約1ヘクタールの放牧場は、隣家のご好意で無償で借用しています。

畜舎の設計、建設、素牛の導入など初めは一人でしていました。就職を勧められ、忙しくなったこともあり、妻にも手伝ってもらうことに。妻にとっては何かも初めのことでしたが、今では牛の誘導もうまくなりました。

Q・まちの印象は？

西村 本場に自然が素晴らしい。地産地消が実践できるところ。それに、四季を通じて海の幸、山の幸があり、酒の肴にことかきません。妻は隣人の誘いで、山菜採りにも行きます。畑では、四季折々の野菜を育てています。

Q・和牛の飼育について教えてください。

西村 繁殖用に黒毛和種の雌を10頭飼育し、昼間は放牧しています。粗飼料はワラを含めて全て購入しています。子牛は常に5、6頭あり、8、9か月になると出荷します。

全国和牛能力共進会の肉牛部門で、私の生産した子

牛（町内の肥育農家が肥育しています）が、最終予選に出場予定です。この肉牛が、本選に出場することを夢見ています。

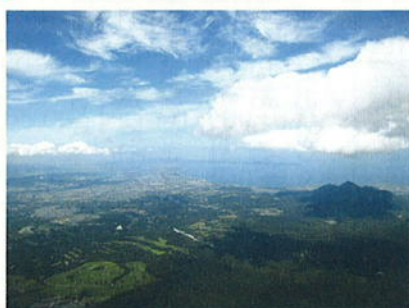
趣味で観賞用の日本鶏も飼っています。特に大冠桂種、黒ダルマ種（肥後チャボ）に力を入れて、その普及改良に取り組んでいます。

定年退職後の楽しみに、和牛を飼うことをお勧めしました。規則正しい生活ができましたし、子牛の価格、枝肉相場、飼料価格の動向などで世界情勢にも興味をわき、ぼけ防止にも。よりよい牛にと思い、目標もできます。何より動物は、飼い主を頼りにしてくれます。これも生きがいです。

私たちのまち（6月1日現在）

○人 口： 19,171人（-21）
男： 9,118人（-18）
女： 10,053人（-3）
○世帯数： 5,945世帯（+1）

今月の税 固定資産税（2期分）
納期限は7月31日（火）です



大山8合目からの眺め（6月3日）

編集後記

夏山シーズンが幕開けしました。左の写真は、大山夏山開き祭の山頂神事に向かう途中の写真です。ふもとの気温が30℃なら、山頂は23℃前後（天気が悪いともっと下がります）。暑い夏。さわやかな空気を体感しに、運動不足解消に、夏休みの思い出に、山頂をめざしてみたいかがでしょう。



大山町広報7月号 No.29

◆発行：大山町役場
◆編集：企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-2702

大山町ホームページ

<http://www.daisen.jp/>

◆印刷：有限会社米子プリント社